

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：2022年 2月 10日

事業所名 平谷こども発達クリニック 発達支援室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動内容に合わせて部屋を使い分けている。	
	2 職員の配置数は適切である	○			基準以上のスタッフを配置するようにしている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		部屋の名前を絵で知らせ、子どもに分かりやすいようにしている 階段に子ども用の手すりを設置している	本人の様子に合わせて視覚支援などを利用して構造化を行っている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			活動前に掃除するようにしている。また、活動の趣旨に合わせて環境設定するよう心がけている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		対応に悩むケースについてスタッフ間で各々相談する機会を作っている。	活動に携わるスタッフ間で話し合いを行っている。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			評価を実施後には内容に目を通し改善を心がけている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		事業所内かつホームページに掲載している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		評価結果を確認し、改善を心がけている。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎週金曜日に研修会を実施している。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			アセスメント表に基づき話し合いを進め、ニーズや課題として挙げた内容を取り入れて作成している。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		SDQを使用している。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている		○		計画に際してガイドラインの確認が不十分な場合があるため、確認を徹底していきたい。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			適宜計画内容を確認し、必要な支援を行っている。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		活動に関わるスタッフ間で話し合いプログラムを決定している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			主担当を交代制とし活動内容が固定化しないようにしている。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			本人の様子に留意し、個別で狙うべきポイントと集団で取り組むべき内容を検討している。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		事前に参加スタッフで話し合いの場を設けている。	活動前に時間がとれないことがある。大まかな役割を決めるだけでなく細かい内容についても事前に話し合えるように。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			毎回振り返りを行い、情報共有している。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			振り返り後は記録を行い、よりよい支援を検討している。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			半年に1回モニタリングを行っている。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			原案作成時に関わるスタッフ同士で担当者会議を開催している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		相談支援事業所等と連携している。	コロナの影響で園などの機関と密接に連携できていない。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○			受け入れていない
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○			受け入れていない
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			就学に向けてなど必要に応じて支援者会議に参加し情報共有を行っている。	保護者を通して間接的な場合があるので、積極的に参加していきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○			就学に向けてなど必要に応じて支援者会議に参加し情報共有を行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			機会があれば助言や研修を受けたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			交流の機械は設けていないが機会があれば取り組みたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○				都合が合わずあまり参加できていない。事業所から1名以上は参加できるようにしていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				活動時または活動後に話す機会を設けている。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			保護者のコミュニティにスタッフが入り相談会を実施している。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				契約書や重要事項説明書を確認しながら説明を行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				支援内容について説明を行い、同意が得られた場合に限りサインをいただき、得られなかった場合には内容を修正し改めて説明している。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				フィードバック時や相談会の中で出た悩みについて一緒に検討し支援を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○				相談会の中で保護者同士の連携も図っている。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している		○			相談や申し入れがあった場合には、関係者で話し合い対応している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○			会報の発行は行っていないが、定期的に授業参観という形で活動見学は行っている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○				個人情報が出漏れしないよう注意を払っている。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				本人や保護者に分かりやすいような伝え方を心がけている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			外部に向けた行事を開催していないが機会があれば行いたい。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○		マニュアルは策定しているが、訓練の実施は行っていない。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			定期的に避難訓練を行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			利用者表にて服薬等について確認している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			おやつ提供時や調理をする際は事前にアレルギーについて確認している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		ヒヤリハット事例集は作成していないため、今後作成しスタッフ間で共有していきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		参加した職員が伝達研修の形で周知している。	研修に参加している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		拘束の必要がある場合は保護者に了解を得て計画書に記載するようになっているが、現在までそのようなケースはいない。